



## Welcome back to Okinawa!! Welcome to Koyo High School!



### Victoria Etsuko Oshiro Nishiuchi さん (America)1年3・4組



先週は国際色豊かな1週間となりました。皆さんもご存じのように5年ぶりに「世界のウチナンチュ大会」が開かれ、多くのウチナー移民の子孫達が沖縄を訪れました。本校にも、アメリカからビクトリアエツコ大城さん、ペルーから小波津カリナさんがお見えになり、特別授業を行って下さいました。また、国際文科中国語コース全員による「向陽高校中国語学習発表会」も行われました。それぞれどんな様子だったか紹介します。

### 小波津カリナさん (Peru) 2年2組

2年生の武内さんは県のプログラムで8月に2週間ペルーを訪問し、県人会の方と交流を持ちました。そこでまず、武内さんがペルー移民の歴史と今の沖縄県人会の様子などをプレゼンテーションしてくれました。「契約移民」としてペルーに渡ったウチナンチュ達が沖縄に戻ろうとした時、戦争が始まり、なかなか帰国できなくなったそうです。そこで「呼び寄せ移民」として家族をペルーにより、暮らすようになったウチナンチュも多く、現在日系人は42万人もペルーにいるそうです。第2次世界大戦中は方言を話すと、アメリカの強制収容所に送られる危険性があったため、方言を話す人が減ってしまい、うまく継承されていないそうです。

武内さんはペルーに行き、「自分が何者であるか」ということを強く感じたそうです。ウチナンチュなのに、三味線も弾けず、琉舞も踊れない。沖縄のことを何も知らない。一方、ペルーの県人会の方は三味線を弾け、琉舞を踊れる人も多くここがペルーということを忘れるほどだったと言っていました。だから、向陽生の皆さんに「ペルーにこんなにたくさんの沖縄移民がいること、そして沖縄文化をきちんと学び、継承することの大切さを伝えたい」と武内さんは話していました。

小波津さんはペルー県人会のまとめ役として活躍されており、琉球大学で学ばれた経験もあります。ペルーの料理はフュージョン料理が多く、中国や沖縄料理とペルー料理のフュージョン（融合）が特徴で醤油をよく使い、米もよく食べるそうです。

小波津さんは向陽生に「沖縄の文化を守り、次の世代にしっかりと引き継いでいってほしい」と語っていました。

まず、歓迎の舞として吉田光希さんが琉舞を披露しました。その後、3・4組の生徒代表による沖縄文化紹介のプレゼンテーションを大城さんはハワイで育ち、アメリカ本土の大学で言語学を学んだそうです。その後、医療技術者として働く傍ら、カリフォルニアの沖縄県人会のリーダーとして活躍されているそうです。大城さんは、スペイン語、日本語、英語を話せるトライリンガルです。大城さんが私たちに送ったメッセージを最後に紹介します。「沖縄の人達は人と人の繋がりをとても大切にしている。そんな沖縄の思い守り、次の世代にしっかりと引き継いでいってほしい」

## 大好評！ 第12回中国語学習発表大会



金曜日に向陽高校恒例の国際文科中国語コースの生徒達による中国語学習発表会が実施されました。

1年生は中国語で「涙そうそう」を歌いました。2年生は中国人への街頭インタビューの様子を上映しました。インタビューは宮古島、国際通り、大黒屋と様々な場所で行われ、「なぜ沖縄に来たか」「沖縄で何を買ったか」「沖縄のどこへ行ったか」などを流ちょうな中国語で訊いていました。

3年生は劇、ダンスの他にアニメ「おでんくん」の吹き替えに挑戦し、感情たつぷりに台詞をしゃべる姿が印象的でした。

学年が上がるにつれ、中国語の運用能力も格段に上がっており、日頃の学習成果が発揮された素晴らしい大会でした。



沖縄での再会を喜ぶ  
武内さんとカリナさん